

從二位伯爵東久世通禧公題辭
宮中御歌所長高崎正風公題歌
從三位福羽美靜公文學博士小中村清矩先生序文

佐々木信綱君著

全一冊紙數千六百頁

總皮金壹圓六拾錢

正價金壹圓六拾錢

歌の棗

歌の棗 目次

- 上編 ● 總論 ● 歌の沿革 ● 歌の種類 ● 歌の雅遊 ● 歌の書式 ● 中編 ● 題便覽 ● 名所便覽 ● 假名遣 ● 歌詞便覽 ● 下編 ● 作法類語集 ● 作例名歌集

歌は文學の神髓にして、其高尚優美なる事他に及ぶべきものなし。うべなり、歌人一唱の詠は天地を動し鬼神を感せしめ、一世を風動し萬古に傳唱し、神代より明治の聖代に至るまで、相傳へ相誦し名人巨匠輩出して其道倍々旺んに、我萬世一系の皇統と共に、宇内に卓絶せる事、然して古來歌學の書歌集の類其數尤も多しといへども、未だ完成せる書ある事なし。故を以て、少壯にして歌人の名高く、日歌學者の魁たる佐々木君、未だ大學に在し時此書を草し、其卒業論文に出されたりき。爾後筆硯に暇なき中より増補改訂數回の星君を経て、漸く積で千六百餘頁の完全せる「歌の棗」を世に公にせられたり。其上編は論ぜられたる沿革類法則は最嚴密に最見識高く、雅遊はあらゆる歌の上の遊を觀せ、書式は當時の能書多田親愛君に請て名筆七葉を載せ、中編に擧げられたる類題名所假字格冠辭歌詞の諸課題は歌を詠する者の必知らざるべからざる所にし、下編に載せられたる作法類語集作例名歌集は、各題につきて其作法類語を懇切に説かれ、及最卓絶せる秀歌を示されたり。古來かつてかくの如く歌に關せる一切の事を網羅せる書なし。殊に總歌を以て最卓絶せる秀歌を加へ、從來歌書の面目を一刷新せられたる新思想少なからず。これ實に編者が數年間の苦心より出たる結果なり。世の歌人諸君並に歌に志す諸君心す一本を座右に備へられん事を。

大和田建樹先生著

尋常 帝國唱歌

全三冊 和裝美本 正拾四錢 郵稅四錢

次目

(上卷) ● 始業の歌 ● 好き家 ● 鯉上 ● 朝の歌 ● 田植の歌 ● 國民 ● 親の恩 ● 神風 ● 小葉 ● はせつり ● 貧しき人 ● 今ころ ● 旅空 (下卷) ● 八咫鳥 ● 日本武尊 ● 富士の山 ● 終業の歌 ● 元且の歌 ● 時計 ● 皇祖の祭 ● 官の山 ● 藤へよ波 ● 高津の宮 ● 運動會 ● 今日から休源平 ● 夕霧 ● 淺川 ● にひなめ

高等 帝國唱歌

全三冊 和裝美本 正拾四錢 郵稅四錢

次目

(上卷) ● 春の歌 ● 如意輪堂 ● 月と我と ● 湯氣の水 ● はたるく ● 時は真 ● 夕の雲 ● 關龍 ● 妹の名 ● 池の蛙 ● 秋は來たり ● 水蒸氣 ● 舟家 ● 希望 ● すみれ ● 昔公 ● 樂しき時 ● 母の心 ● 夜あけ ● 桜葉の歌 ● 銀治の歌 ● 見 ● 夕暮 ● 君恩 ● (下卷) ● 三種の神器 ● 夢 ● 和氣清盛 ● 自然の音楽 ● 竹馬 ● 忍耐 ● 子ども ● 嵐山 ● 誰の雀 ● 二月十一日 ● 車はくるく ● 千鳥の聲 ● 蟬の子 ● 伊勢の宮居 ● 夕立つ雨 ● 祝日 ● 亡友 ● すまみの歌 ● 水の草 ● 工女の歌 ● 學校の道 ● 木の歌 ● 笛の音 ● さとづれ ● 石柳山 ● 老木の陰

學習院御用掛陸軍大佐從四位高島信茂公題辭
東京音樂學校教授從七位上眞行先生校閱
學習院音樂教官納所辨次郎君編纂

日本軍歌

全壹冊 和裝美本 正拾二錢 郵稅二錢

次目

● 海ゆかば ● 千代田振 ● ふみこ ● 人々 ● たまちるつる ● ひさしく ● 駒 ● すま ● 大和島 ● おぼろのさざり ● さるべし ● おやの思 ● すうたけ ● 宮城 ● いざす ● む ● 國の旗 ● 春は露 ● 進軍歌 ● みづく ● かね ● 夢びの道 ● はしがた ● 功 ● 米俵 ● 省亭二氏密書入

新調 青年唱歌集

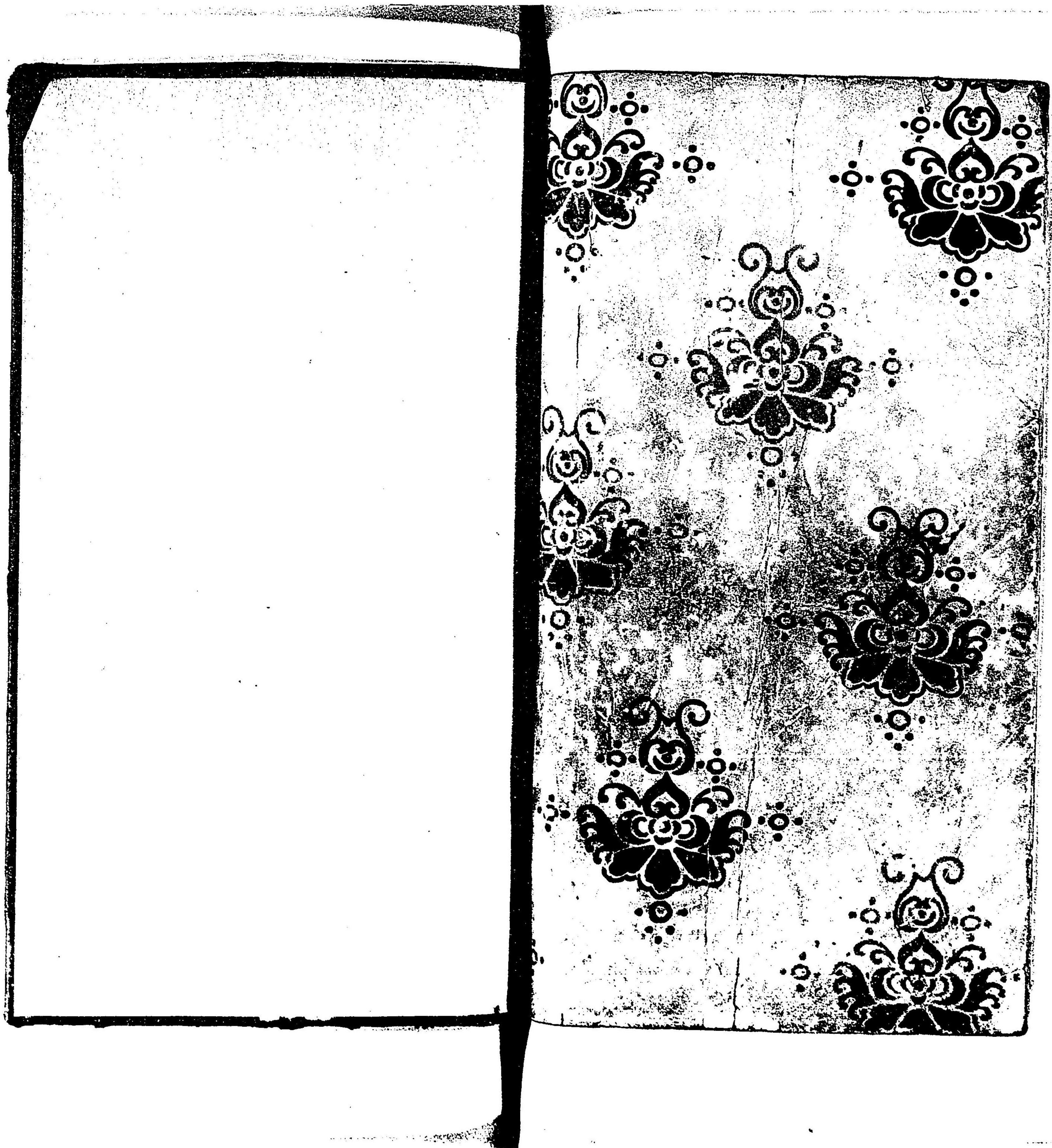
全三冊 和裝美本 正拾四錢 郵稅四錢

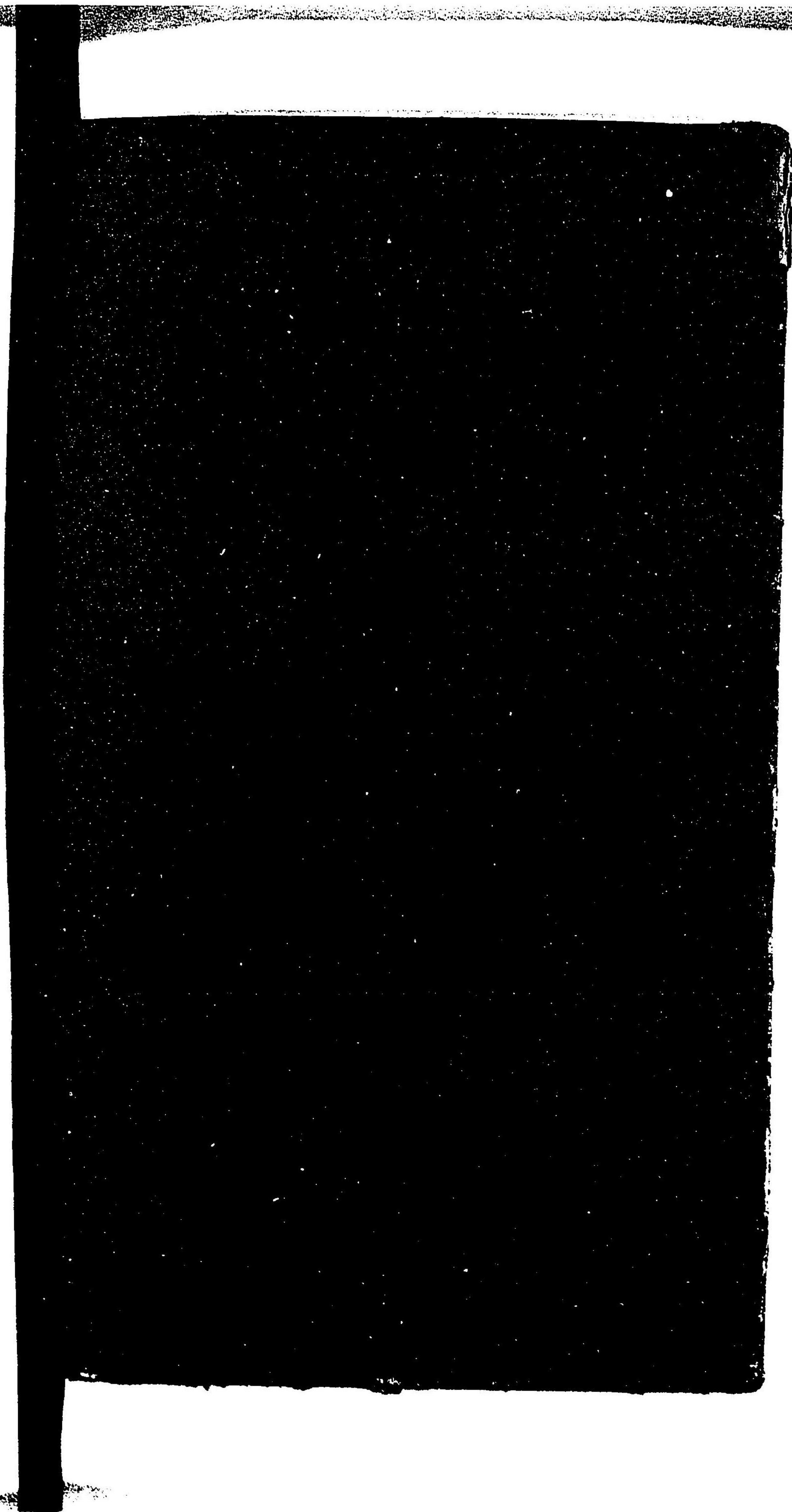
美妙優君の唱歌韻文は格調の奇抜にして閑雅流麗なる者之れを知る殊に本集は青年の爲めに尤も其熱血多情の筆を揮はれたり歴史情事春夏秋冬各祭日等皆載せて光彩を發せり
梅花道人 中西幹男君著

新體 梅花詩集

全壹冊 和裝美本 正拾五錢 郵稅四錢

氏が得たの新詩体即ち韻文の巧妙は世間既に定評あり明治新天地の新字を味はんとする諸君は乞ふ之を讀め





謡曲通解

四

